東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

「個性の大地」

第１５号（平成１７年３月）
東北地方整備局河川部
地域河川課　発行

平成１６年度補正予算成立　河川局関係東北補助事業予算３７億円

２月１日付けで、平成１６年度に発生した台風、豪雨等による被害を踏まえ、災害予防対策が追加配分されました。また、公共事業の円滑かつ効率的な執行を図るため、事業の平準化推進のため国庫債務負担行為（ゼロ国債）も合わせて計上されています。

東北補助河川関係　　単位：百万円

	H16 当初予算		補正予算①		補正予算②		H16 予算	
		うち一括配分	災害予防	うち一括配分	ゼロ国債	うち一括配分	当初＋補正①	うち一括配分
河川	32,587	24,443	680	130	162	122	33,267	24,573
ダム	25,330	1,114	0	0	255	0	25,330	1,114
砂防	20,125	63	0	0	1,438	0	20,125	63
急傾斜	6,085	0	0	0	531	0	6,085	0
海岸	4,800	1,047	0	0	610	0	4,800	1,047
	88,927	26,667	680	130	2,996	122	89,607	26,797

主な災害予防対策事業

◆砂鉄川河川激甚災害対策特別緊急事業

【岩手県東山町】

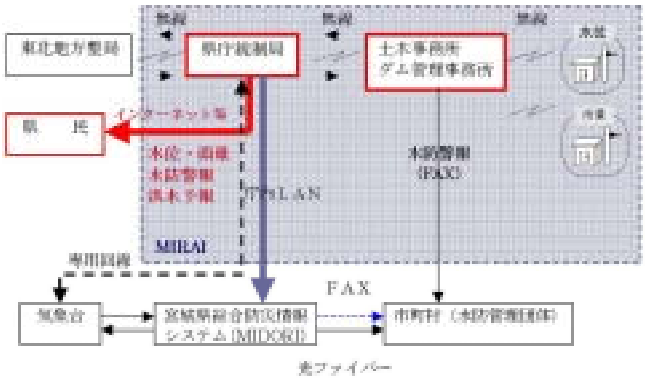


平成１４年７月洪水
中心部の浸水状況

平成１４年７月洪水で甚大な被害を受けた砂鉄川上流部において、河川激甚災害対策特別緊急事業の促進を図り、平成１８年度に完成をさせることが出来ます。

◆情報基盤緊急整備事業

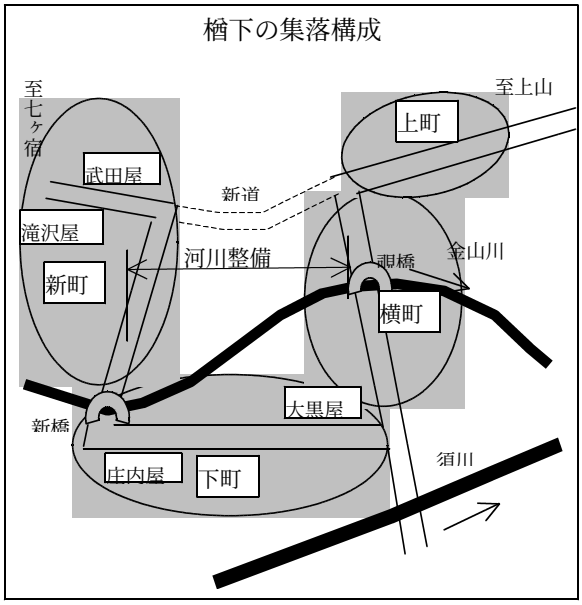
河川流域情報システム＜ＭＩＲＡＩ＞【宮城県】



平成１５年度より整備している、宮城県河川流域情報システムを早期に完成させることにより、水防活動や住民の避難など防災に役立つ情報を迅速かつ的確に提供することが出来ます。

特　　集

歴史とロマンの世界「楢下宿」を支援する河川整備　【山形県】



かつて、楢下は羽州街道の諸大名 13 藩の参勤交代の宿場町として、本陣、脇本陣、問屋、旅籠屋、茶屋等を備えて繁栄しました。今、「歴史とロマン」をキーワードに、地域の「楢下宿保存会」、上山市、県が連携して、河川空間整備とともに、歴史・文化・伝統・物産品など現在楢下を自慢するものに磨きをかけ、地域活性化を図っています。

楢下宿は、金山峠を越えて、出羽国（現在の山形県・秋田県）に入って初めて本陣を有する宿場で新町・下町・横町・上町の４町から成り、下町は宿場の中心であった。

新町は、宝暦７年（1757）の楢下大洪水の後で新たにできた町並みであるが、以降幕末まで基本的に変化がなく、また、宿場内の道路は非常に珍しい「コ」の字に曲折しており、明治 13 年（1880）初代県令三島通庸により、木橋であった新橋を石橋に、さらに同 15 年に覗橋も石橋に架け替えられました。

そのため、河川整備においては、護岸の機能向上と共に豊かな地域資源を活かすよう、石橋や民家がゆったり眺められるようにしたり、楽しく散策できるような様々な工夫をしています。



もてなしの形が現れ始めた庄内屋



住民と行政の勉強会



完成後の模型

まちづくりと一体となった川づくり（六角川）　【福島県】

○　床上浸水対策特別緊急事業（一級河川 六角川）：福島県二本松市を流れる六角川は、安達太良山の麓にその源を発し、市街地や二本松駅前を貫流し、阿武隈川に合流する１級河川です。六角川は、川幅が狭く、市街地背後の山地から急激に水が集まり、比較的小規模の降水でも浸水被害が多発しています。

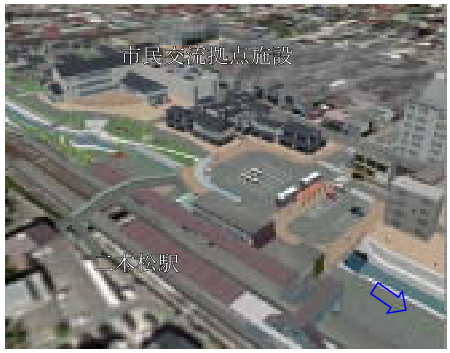
そのため、早急な治水対策と駅前周辺部の顔になるような河川整備が望まれていました。



○　この床上浸水対策特別緊急事業に合わせて、二本松市は駅前周辺整備事業（交通連携　推進事業とまちづくり交付金事業）により、二本松市の玄関口である二本松駅前の整備を行います。この事業では、駅前広場を今までの約 1.7 倍に広げ、さらには市民交流拠点施設を整備します。また、河川でも交流拠点施設前には親水広場を設置し、市民や観光客がゆったり河川にふれあう空間づくりも計画しており、地域住民はもちろんのこと観光客にとっても魅力ある中核都市・二本松市の顔になるものと期待されております。

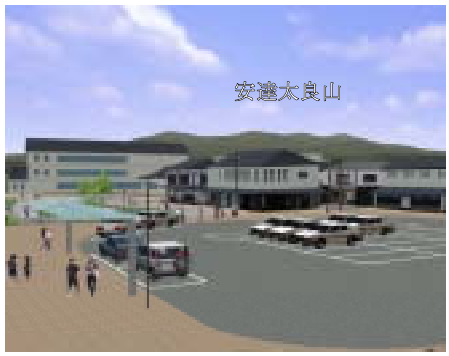


完成後

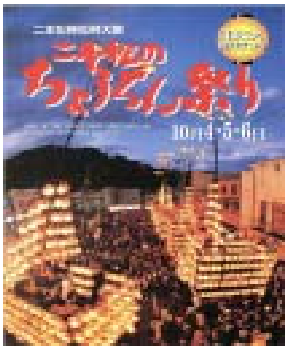




完成イメージ



○　現在、駅前から下流側に 400 ｍまで工事が進んでおり、平成 17 年度の秋頃には駅前部分の工事に本格的に着手できる予定です。駅を降りるとすぐ前には、二本松神社があり、その神社の例大祭は、「二本松のちょうちん祭り」とも呼ばれ多くの観光客が訪れ、秋の夜長にちょうちんの明かりが何とも幻想的な夜を演出してくれます。河川整備と駅前周辺整備が完了した後は、さらに多くの観光客や地元市民で賑わうものと期待しています。



トピックス　（東北六県・仙台市情報）

雪崩防災教室開催　１２／１３　【青森県】



講義する青森県職員



雪崩災害ビデオに釘付けになる生徒たち

毎年１２月１日から７日を「雪崩防災週間」として雪崩災害の防止に努めていますが、関連行事として青森県では、「雪崩防災教室」を平成８年度から開催しています。

平成１６年度は、西津軽郡鰺ヶ沢町において町立南金沢小学校の生徒を対象に開催しました。

砂防ボランテイア岩手県協会―合同研修会　【岩手県】
―　災害を検証し　学び　そして　安心の未来を築く！―



岩手県河川海岸協会・岩手県治水砂防協会・砂防ボランテイア岩手県協会は、平成１６年度研修会を合同で１月２７日に開催しました。

今年度のテーマは、「災害を検証し学びそして安心の未来を築く」として、研修しました。研修内容は、雪谷川災害復旧の取組みから、平成 16 年の異常災害の検証、災害に学ぶことなどの講習があり、非常に有意義な研修となりました。

研修次第

１　「雪谷川災害復旧の取組」について
　　岩手県河川課　主任　中田　勇一
２　「二戸市土砂災害相互通報システム」について
　　二戸市建設課　管理係長　工藤　正壽
３　「平成 16 年の異常災害の検証と今後の河川整備の課題」について
　　岩手大学農学部　助教授　井良沢　道也
４　「災害に学ぶ」について
　　全国治水砂防協会　理事　岡本　正男

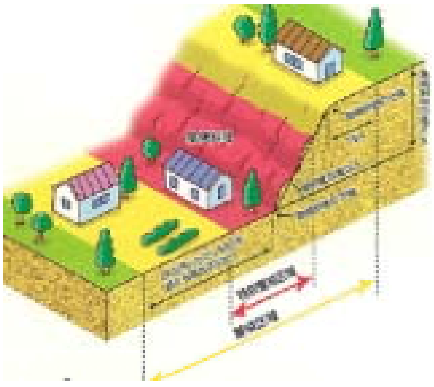
横手川の冬の風物ミニかまくら　【秋田県】



秋田県横手市の冬の伝統行事である「かまくら」が２月１５日、１６日に行われます。
まつり期間中は市内に１００個ほどのかまくらが作られるほか、市内を流れる横手川の河川敷にもたくさんのミニかまくらが作られ、幻想的な風景をつくりだしています。

ミニかまくらが作られる河川敷は、昭和６２年度から平成１３年度まで実施された「ふるさとの川モデル事業」により、多目的イベント広場として整備されたものです。この広場はミニかまくらのほか、夏の「送り盆まつり」や各種の行事やイベントで市民に利用されています。

～ 東 北 で 初 め て ～ 土砂災害警戒区域指定　【秋田県】



急傾斜地崩壊の場合

秋田県では、湯沢市他９市町村であわせて１５１カ所を土砂災害警戒区域に２月１５日指定しました。区域指定は、東北初、全国では７番目となります。

土砂災害警戒区域の指定は、平成１３年４月に施行された土砂災害防止法に基づくものです。これは、土砂災害の危険区域を指定し警戒避難体制の充実と区域内の建築規制等を図り、土砂災害から人命と財産を守ることを目的としています。

秋田県では、平成１６年４月から指定箇所の現地調査を開始し、その結果を住民説明会を行い、この程区域指定したものです。

今後は、当該市町村は、危険の周知、警戒避難体制の整備などの対策を推進していく予定です。

芝生の有効利用　【山形県】



山形県天童市の県総合運動公園では１２月にメインスタジアム内の芝の張替工事が行われました。そこで発生した芝を有効利用し、河川工事に利用することにしました。

写真は、山形市門伝地区の須川河川改修工事に活用された芝の状況です。隣接地には広大な緑地公園の整備も進められており、河川空間と緑地公園の一体的な利活用を図るため緩傾斜（４割）の堤防を築造しています。

これまで、スポーツマンたちの汗や涙を吸い込んできた芝生ですが、これからはやすらぎや潤いを求めて訪れる人々をやさしく受け止めてくれることを期待しています。

こまちダム定礎式の挙行　【福島県】



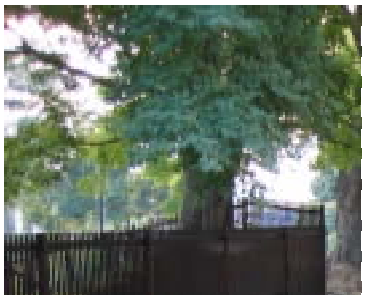
【定礎（鎮定の儀）】

福島県が田村郡小野町菖蒲谷地内の二級河川黒森川に建設を進めている「こまちダム」の定礎式が、平成１６年１１月９日に行政関係者、工事関係者及び地元関係者等約１２０人が見守る中、執り行われました。

こまちダムは生活貯水池ダムとして黒森川の洪水調節や小野町への水道用水確保等を図ることを目的に平成６年度から建設が進められてきた多目的ダムであり、堤高３７m、堤頂長１５０m、堤体積3.1 万m ３ の重力式コンクリートダムで平成１８年度完成を目指しています。

式典は、晴天の中、厳かに執り行われ、ダムのＰＲと地域振興を込めた全国で始めてのダムの応援歌「こまちダム賛歌」が小野新町小学校合唱部により披露され式典に花を添えました。

良好な河川環境の創出のため水利権取得　【仙台市】
ー六郷堀・七郷堀の通年通水についてー



仙台市東部の水田地帯を潤す農業用水路である六郷堀・七郷堀は、これまで非灌漑期になると広瀬川からの取水が停止し，地元住民からは、「水の潤う水路の復活」「水辺景観の回復」「悪臭防止としての流水の効用」の通年通水に関する強い要望が寄せられていました。このような中、仙台地域の望ましい水循環のあり方を検討する場として、東北地方整備局、東北農政局、宮城県及び仙台市から構成される「仙台地域水循環協議会」が設立（平成11年９月）され、六郷堀・七郷堀の非灌漑期の通水が主要な議題として検討される中で、平成11年から地域住民との協働のもと、５回にわたる試験通水が行われてきました。

その結果、景観改善や悪臭防止などに効果が認められ、「可能な限り通水を続けてほしい」との住民の意識調査の結果もあり，通水が『仙台市水環境プラン』に掲げる「潤いと安らぎのある街づくり」に大きく貢献できることが確認されたことから、平成16年11月宮城県に対して新たな水利使用の許可申請を行い、国の認可を経てこのたび水利使用の許可を平成17年1月4日に取得することができました。

昔の六郷堀・七郷堀は、住民の生活用水や染物などにも活用され，子供たちの遊び場でもありました。一定の条件があるものの、水利権取得により水源である広瀬川から一年を通した取水が可能となり、水路にかつての水の潤いが復活し、水辺環境が改善するものと沿川住民と共に期待しているところです。

整備局の動き

【連携情報】

直轄・補助ダム定期検査連絡会　【地域河川課】

１０月６日仙台市内において、整備局並びに東北各県の担当者が集まり、「直轄・補助ダム定期検査連絡会」を今年度初めて開催しました。本連絡会では、直轄・補助ダムを対象にしてダム定期点検を実施するにあたり「ダム定期点検の手引き」をもとにダム全般・機械・電気設備担当者が検査内容・方法・判定等の検査のポイント説明等を実施しました。

豪雨災害対策緊急アクションプラン　【河川部】

～整備局に「災害情報普及支援室」を新たに設置～

平成１６年の全国各地での災害の多発を受け、本省では昨年 12 月 10 日に「豪雨災害対策緊急アクションプラン」をとりまとめました。さらに、同アクションプランを受けて、同 12 月 21 日には、東北地方整備局をはじめとする 10 の地方支分局長が共同で具体的な今後の対応策について国土交通大臣に報告を行った旨を明らかにしたところです。(詳細は、HP をご覧下さい)

その報告内容に基づき、整備局では、直轄河川関係担当全事務所(12 事務所)に「災害情報普及支援室」を設置することとしました。

＜役割・機能＞

- ●ハザードマップの作成に関する市町村への技術支援
- ●事務所管理区間における氾濫シミュレーション結果の提供
- ●「災害情報協議会（仮称)」の運営
- ●その他、災害ポテンシャル情報に関する普及・啓蒙活動等

緊急アクションプランと地方整備局等の取り組み

豪雨災害対策緊急アクションプラン	地方整備局等の取り組み　５課題１６項目
送り手情報から受け手情報への転換を通じた災害情報の提供の充実 （洪水予測情報システム整備、浸水情報提供、ダム放流警報スピーカー等市町村等解放）	●都道府県への技術支援（H17.1 ～） ●氾濫情報の充実（H17.1 ～） ●ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる広域的な情報収集・提供 ●関係機関相互の連携
平常時からの防災情報の共有の徹底 （水防法改定関連、洪水・土砂災害ハザードマップ等）	●ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ作成等の自治体への支援体制の強化と情報の共有化（H17.1 ～） ●実感を伴う災害危険度情報の充実(H17 出水期まで)
迅速かつ効率的な防災的な防災施設の機能の維持向上 （堤防の質的強化等）	●堤防の点検と強化対策の計画的推進（H17 ～） ●ダムの洪水調節ルールの変更(H17 ～)
地域の防災対応力の再構築 （災害時要援護者対応、水防活動等の強化等）	●危機管理体制の点検・再構築(H17 ～) ●都道府県等との広域連携・支援(H17 出水期まで)
河川管理者の防災体制の総点検と改善	●緊急時の情報提供体制の強化(H17 ～) ●基幹事務所の耐水化・耐震化

堤防点検・対策ガイドライン説明会　【地域河川課】



今年７月の新潟・福島、福井での集中豪雨、相次ぐ台風など、頻発する水災害を受け、本省では昨年１１月２日「中小河川における堤防点検・対策ガイドライン（案）」を策定し、中小河川における堤防点検及び堤防強化対策工法の考え方をまとめたほか、来年度出水期を目途に特に重要な河川にもしくは河川の区間に対して堤防点検及びモニタリングを実施・公表することとしました。

東北管内においては、２月２３日（財）国土技術研究センター佐古研究員から説明により、東北各県の河川担当者への「中小河川における堤防点検・対策説明会」を開催しました。本説明会では、堤防点検・対策についての具体な調査内容や手法について説明したほか、その対策工法についても解説しました。

また、北上川下流河川事務所佐藤調査課長からは、直轄河川における堤防点検の概要と昨年度発生した宮城県北部連続地震における被災堤防のモニタリング結果等についても報告されました。

ダム工事関係設計積算担当者会議開催　【河川工事課】

２月２４日から２５日仙台市内において、東北のダム工事関係の設計積算及び工事など業務の効率化を図るため、直轄ダム及び補助ダムの担当者７４人が参加し開催しました。

会議は、整備局河川部長の挨拶、整備局の関係課からの連絡事項及びダムに関する動きなどの紹介の後、各事業における課題やコスト縮減などへの取り組み状況について、報告と意見交換が行われました。

【連絡事項】

災害関連緊急事業採択状況　【地域河川課】

１０月の台風２３号の災害に伴い、災害関連緊急事業が採択されました。

■下舟引地区地すべり（福島県耶麻郡山都町）　事業費　138,000 千円【採択日 H17.2.1】
■坂シ内地区急傾斜地（福島県双葉郡川内村）　事業費　69,400 千円【採択日 H17.2.1】

平成１６年土砂災害報告状況　【地域河川課】

◆県別災害発生一覧表

	土石流	地すべり	がけ崩れ	計
青　森　県			5	5
岩　手　県	2		6	8
宮　城　県		1	2	3
秋　田　県	1		7	8
山　形　県	4	１６	２０	４０
福　島　県	1	7	２４	３２
計	8	２４	６４	９６

※整備局災害報告分

◆主な災害別発生件数

○融雪災害等　１月～５月上旬　６件
○前線豪雨　7/13 ～ 7/21　５２件
○台風２１号　9/30　８件
○台風２２号　10/ 9 ～ 10/10　４件
○台風２３号　10/20 ～ 10/21　３件

公共土木施設の災害被害額　【地域河川課】

今年は、新潟・福島豪雨や台風などの影響により昨年の約２．４倍（約３８０億円）の公共土木施設の災害被害額となりました。

県別補助災害関係公共土木施設被害報告額　（単位：千円）

	平成１４年		平成１５年		平成１６年	
	箇所数	金　額	箇所数	金　額	箇所数	金　額
青森県	666	6,751,856	60	1,123,264	311	5,211,800
岩手県	3,006	31,070,077	199	4,136,634	731	8,235,507
宮城県	932	6,992,135	403	7,684,094	30	424,000
秋田県	618	3,955,772	302	2,499,404	401	6,268,000
山形県	375	2,953,421	41	466,534	508	7,413,470
福島県	1,788	24,428,587	2	99,654	742	10,802,300
計	7,385	76,151,848	1,007	16,009,584	2,723	38,355,077

※県工事＋市町村工事
※ H14 及び H15 は決定。H16 は申請。

完了検査を終えて　【水政課】

平成１５年度完了事業に係る完了検査につきましては、おかげさまで無事終了し、現在額の確定作業を行っております。
事業の執行にあたっては、
①事業の目的・効率性を考慮した無駄のない計画になっているか
②重要な変更の案件が生じた場合には、迅速に申請手続を行うこと
等の点に十分留意していただくよう、今後ともよろしくお願いします。

編　集　後　記

実施計画の準備ご苦労様です。年度末から年度初めにかけて多忙な日々が続きますがよろしくお願いします。さて、今年度の甚大な被害等を契機に「豪雨災害対策緊急アクションプラン」が打ち出され、着実に実行するには、整備局と県がタックを組んで取り組んで行く必要があります。まだ、詳細が決定していないところもありますが決定次第、逐次情報を出していきたいと思いますので協力をお願いします。
最後に１年間編集員の方々ありがとうございました。また、ご愛読ありがとうございました。来年度も同様の編集方針のもと発行させて頂きたいと思いますので、よろしく御願いします。投稿などは随時受付けていますので是非御一報ください。

本誌に関して御意見、問い合わせがございましたら地域河川課までお願いします。
発行　国土交通省 東北地方整備局 河川部 地域河川課
〒980-8602　仙台市青葉区二日町９番１５号
TEL022-225-2171(大代表)　FAX022-262-6690
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.thr.mlit.go.jp/kasen/